

令和5年度第3回横須賀市市民協働審議会 議事概要

日時：令和5年（2023年）10月20日（金）

10：00～11：35

場所：市役所3号館3階301会議室

【出席委員】志村委員、手塚委員、石塚委員、岩堀委員、工藤委員、小山委員、佐野委員
島田委員、高橋委員、山本委員、渡辺委員

【欠席委員】なし

【事務局】地域支援部 鶴飼部長、村野課長、山岸主査、里吉主任、加藤主任

【傍聴者】1名

<配付資料>

- 資料1 市民協働推進補助金及び市民協働モデル事業活動報告会の開催方法について
- 資料2-1 令和5年度 特定非営利活動法人の条例指定について〔非公開〕
- 資料2-2 地方税法の寄附金税額控除に係る特定非営利活動法人の指定について
（答申）（案）〔非公開〕
- 資料2-3 NPO法人条例指定審査専門部会から法人への意見〔非公開〕

<議事内容>

1 開 会

会議の成立。（委員11名中、11名出席のため、会議は成立。）

会議資料の確認。

審議事項「地方税法の寄附金税額控除に係る特定非営利活動法人の指定について」は、審議会意思決定の中立性及び公正な審議を確保するため、情報公開条例の規定に基づき非公開とすることについて、全委員の承認を得て決定。

2 検討事項

市民協働推進補助金及び市民協働モデル事業活動報告会の開催方法について

事務局 （資料1を説明）

委員長 出席したことがない委員からすると、イメージしにくい部分があるかと思うので、まずこの補助制度について軽く触れたい。補助金等により市民活動団体の支援を目的とするのもでもう20年ほど続いている。市民協働推進補助金は補助金の交付による支援、モデル事業は行政と一緒に協働しながら事業を進めていくものである。その事業テーマについては行政が提案するものと団体が提案するものがあり、それぞれ審査に先駆け公開プレゼンテーションを行う。団体は最初に補助金交付団体、モデル事業採択団体となるための審査がある。

委員長

これに対し、補助金交付事業あるいはモデル事業として1年間の事業が終わった後に、結果を報告していただく場というのが、現在議論になっている報告会である。審査会は緊張が走る場面もあるが、報告会については少しフランクにできる場である。

最初は委員の出席はなかったが、後に委員長のみ出席するようになった。その後、審査した委員からも団体のその後について聞きたいというお声があり、審査に係わった委員全てが出席するようになったが、委員の負担軽減等も考慮し、現在のように人数を絞った形での出席となった。

長年、開催場所については本庁が多かった。補助金事業・モデル事業の事業成果を行政が評価し、可能であれば補助金やモデル事業の期限が終了する3年後は行政において引き継ぎ、協働事業化や委託事業化されるようにステップアップを目指していただくというもので、そのような趣旨から行政側に積極的に報告会を見てもらいたいというのがあり、本庁の会場を選定していた。年々、市民協働事業も応募数が減少し制度開始当初から比べると熱が落ち着いている。最初の頃は神奈川新聞による報道などもあったが、開催がルーティンとなった昨今は、報道関係が入ることはなくなってきた。

寄付や税金が原資となる事業なので、広く市民に向けた形で報告会を行っているが、市民協働推進補助金・モデル事業にこれから応募しようとする団体にとっては、この報告会がとても参考になるかと思う。応募までいかなくとも、これから何か活動しようと思う方にとっても、どのようなことに対して補助金が交付されるのかを学んでもらう為には、公開型でやるのがベストである。

ただ、20年近くこの報告会を見ているなかでは、来場者はそのような方ではなく、団体関係者が多くなってしまった。また、行政の担当者が来るケースも減り、モデル事業以外はあまり見なくなった。団体関係者であっても、最近では自分の発表が終わると帰ってしまう方もいる。

なので、いよいよもってこの報告会の形態や、報告会の効果について疑問が生じる状況である。

これは、報告会だけの問題ではなく、事業の選定方法や補助を受ける団体の制度に対する理解、事業効果の示し方と、もしかすると市民の熱意、熱量に対する対策も、深掘りしたところにあると感じている。それも含め、広く皆さんから意見をいただきたい。

事務局からの提案では、会議室で行うのではなく、オープンスペースとなるような場所で行うことや、文化祭形式の開催方法などあった。学会の発表で言えば、個別発表ではなくポスターセッションというところか。

委員

市が、この報告会を開催する目的や、やるべき背景を整理して教えていただきたい。

事務局

市民協働推進補助金・モデル事業にそれぞれ採択され、市から補助を受けて行った活動について広く市民に知ってもらう事が一番の目的である。また、今後この補助事業について応募を考えている団体の方などにとっても、事業計画等の参考になるものかと思う。

委員長

補足をすると、広く知ってもらう機会としているのは、寄付を原資とする市の税金を使って補助事業を行っているからである。申請時の計画通り、予算通りに事業を行えたのかを市民に報告していただくためである。

団体が、貴重な血税を、責任を持って使いきちんと活動しましたということ報告すると同時に、活動団体の自慢、PRなども見てもらう場かと思う。

委員

補助金を出している関係上、市民に対するものとは別に会計的な意味合いでの市への正式な事業報告書は提出されているかと思う。それに加えてわざわざ報告会を開催する意味については、お話からあるように、良い事業があった場合

に行政側に取り込んで協働して継続するという話もあったが、来場者はその関係者がほとんどであるという点を考えると、それならば、いかに人を集められるかという部分を考えていかななくてはならないのでは。例えば本当に広く市民に足を運んでもらいたいなら、今回提案の文化祭形式はとても良いと思う。その他に、例えば動画等に残して視聴が可能な環境を整えるのはどうだろうか。また、発表をコンテスト形式にし、順位や賞という形で評価し、良い成果を残した団体にはプラスで何か別の賞金等を与えるなど、何かインセンティブを加えるのはいかがか。資料にある意見については、来場者全員からアンケート取った結果なのか。参加団体・来場者それぞれどういった形で定量的に収集し、他にどのような答えがあったのかも機会があれば知りたい。

事務局

こちらのアンケートについては数あるもののなかから主だったものを抜粋して掲載している。毎回収集はしているが、そこから細かな集計はしていない。

委員長

本当のことを言うと参加者から、報告会という公式な場面ではないところで個別にアドバイスをいただきたいという意見もあり、一時期は報告会が終わった後にお茶など飲みながら委員と団体の方がテーブルを囲んで雑談がてら、活動の悩みや上手くいった事例の共有を行う、という時間を取った事もある。審査の際はできないが、結果報告の時はそのような機会も確かにあっていいだろうということで、何度か開催した。当時は団体数も多く発表会そのものが長時間で、その後となるとなかなか時間を取るのが難しく、あまり積極的には行っていないが、これは開催されると団体からは、非常に良かったという反応である。おそらく団体の皆さんはそういった交流の中で、成功例とは限らずに、高齢化に対する課題や、予算ではない技術的支援など、悩みを吸い上げてもらえる機会として有益に働くのだと思う。報告会において、自分の団体に与えられた数分でこれを行うのは難しい。

もう少しそれぞれの部局も入るなどし、何かコミュニケーションできる機会があると良い、というのはずっと思っていた。これは、文化祭形式にすると少し実現する可能性がある。

委員

活動報告会のポスターを見ると、「誰でも参加できます」と小さい字で書いてあるが、何をするのか詳しく書かれていない。これでは、行く動機がまず市民に伝わらない。また、報告して欲しい内容について、報告書のフォーマットがほぼ白紙1枚である。お金の使い方に関して報告するのか、できたことを報告するのか、逆にできなかったことを報告するのか、事業の効果を報告するのか、おそらくその辺を絞らず好きに書いて良いのだと思うが、自由だとかえって難しくさせてしまう。ある市町での報告会で、事業報告を作成するのが難しい、という団体がいたので、何を報告して欲しいかをカテゴリ分けし4点示したら、その通り書いてくれて報告が上手くできた。パワーポイント等のスライドの様式に、まず事業の動機、そして目的が達成できたか、事業内容の説明など、カテゴリ分けしてその通りに書いてもらうという調子である。行政に対して提出する申請書はものすごく細かく、書くことが沢山あるが、報告書のフォーマットが白紙1枚だと力尽きてしまう感じがする。市へ提出する事業報告書に何が書いてあるか私は見てないが、資料のボリュームを見るとすごく分厚く、大変な労力がかかっていると思うが、そこに何を書いて欲しいのかをきちんとお伝えしないと、団体はそれぞれ書きたいことを書いてしまうので、ある程度の整理は必要かと思う。報告書をきちんと書くことができると、次の企画書に活かせる。次の事業に繋がる流れを作れると良い。個人的には、申請書はそんなに詳しく書かなくても良いと私は思っている。何が起こるか分からないと思いながら夢を書くので、細かく書いたら逆に縛られてしまい、その通りやるべきと思うと、成果に悪影響を及ぼすこともある。市民活動団体の実態を考えながら、事業報告書の提出と報告会については違う仕切りをした方が良いのでは。それを踏まえ、報告会開催の目的であるが、市民の皆さんに広く知って

もりたい、また参加もしてほしい、という目的なのであれば、チラシにおける文章を少し改めること。また、報告会后にそこでの楽しみのようなものがあった方が良く思う。今ご意見として挙げた、セッションのような時間があると良い。昔は長時間だったかもしれないが、昨今は団体数も減り2時間程度で終わっている。自分の団体の発表時間が5分しかないのに2時間拘束されると思うと長時間だと感じるが、その5分のためだけに参加するのではなく、その後の交流も含めてと思うと感じ方も変わってくる。今回来場し、報告会終了後に名刺交換をしたり、団体同士繋がりができるというのを遠巻きに見て、これが必要なのではないかと思った。

詳細な金額や数字を重要視する場ではないので、参加した団体にとっても来場者にとっても実のある時間となり、委員としては活動において力を注いだ事柄や工夫できた点などを聞かせていただきたいと思う。

委員長

この補助事業の選定においても大学受験と同様で、入口が厳しく出口が簡単になっているが、もしかしたら、入口のハードルを下げて出口ではしっかり報告するようにするというのも考え方としてはあるのかもしれない。

委員

会の目的をきちんと設定することが大切。市に提出する事業報告書のなかで金額や事業効果についてしっかり報告できているのであれば、この報告会の目的はそういった部分ではなく、活動におけるこぼれ話や成功事例、課題についても楽しく共有するという点に重きを置くなど、どういうものを組み立てるかをきちんと共通認識にしないとイケない。文化祭形式もひとつの取り組み方としては面白いと思う。2時間程度という時間を考慮すると、冒頭で3分程度それぞれの団体に発表してもらった後に各ブースに分散するような流れでも良いかもしれない。いったん共有して、個別の時間をとるのも良いかなと思う。

委員長

行政側としても、審査にかかわった委員としても、きちんとチェックしなくては、という考えに囚われてしまうが、もっとラフな報告であれば楽しく開催できるし、市民の皆さんも来くなるようなものが開催できるかと思う。

委員

お金がどうこう、というよりは自分たちの団体の活動を知ってもらえるような内容の方が聞いている方も楽しいかと思う。過去の開催状況では全て月曜日となっているが、ここに意図はあるのか。月曜日というのは、皆さんお仕事されている方もいるなかで、参加しにくいように思う。また、特に文化祭形式で実行するのであれば、自由に沢山の方が出入りできるような曜日や時間帯を設定した方が良く思う。ただ、前回の審議会では、小学校の子ども達にも報告会に来場してもらえたら良いのではとお話させていただいたが、そうなると逆に学校としては土日では対応ができないので、難しいが、時間帯などを考えることは重要である。

委員長

準備する側の負担状況の考慮は必要かもしれない。ただ、報告会に参加する団体目線、来場者目線に立って考えることが大事である。

委員

過去に応募し参加した経験がある。報告会が広く市民にPRする場だというのは、実は今知った。むしろ自分は、一度市へ報告書を提出して、それを審査される場と思って臨んでいた。場所についてもステージのような、前に立って近くに委員の方が座っている。アドバイスなのかもしれないが、指摘を受けることもありそうで下手なことは言えない、きちんと数字や実績を報告するという認識しかない。これはやはり、「報告会」という名称や、レイアウト、プレゼン発表時に暗転するなどの雰囲気もあるかと思う。他の方の発表に時に別の方とお喋りをするなど、絶対にできなかった。これが、文化祭形式であれば気軽に来て雑談もでき、楽しい雰囲気の中交流も進みとても良いかと思う。

委員長

体験に基づいた貴重な意見である。我々としても良かれと思ってこのような形になっているが、やはり報告会の位置づけについてはしっかり定めて開催する必要がある。

委員

10年以上報告会に出席させていただいているが、根本として、この補助事業の認知度が低く、市民に浸透されていないという課題がある。また、この補助金に限らず、事業完了前、先に補助金が交付されるものについては、どうしても補助金をもらおうと安心してしまうという心理があるので、税金を使っている事業である以上、報告まで終了して初めて事業終了だという認識を、団体に持ってもらっていただく必要はあるかと思う。私は、ある程度は、きっちりやる事は大切だと思う。

時間は長く、交流の場にはなっていないので、文化祭形式での開催はとても良いかと思うが、加えて、この補助制度を活用した事業例など、市民にこの補助金の目的を知ってもらえるようなミニセミナー的なものを入れた方が良いのかなと思う。横須賀商工会議所の例では、事業報告での良い事例については職員がお店にインタビューに出向き、動画に収め総会で紹介する。文化祭形式で開催するにしても、初めて知る市民に見てもらうためには、簡単な制度の解説から始まり各団体の事例紹介に繋ぐという流れのように、うまくまとめてYouTube等で配信するのはどうか。コンテンツを増やす事も可能である。

また、あの場での審査委員からのアドバイスは、補助金交付の期限が終了した後でも生きてくることがある。MOA美術館については、補助金交付終了後に商工会議所に来ていただき、展示会ができる場所の紹介や、協賛をいただける機関の紹介をした。個別発表が終わった後に、きちんと皆で話し合いなど交流ができる場があると良い。

時間については、ここ数年はコロナもあり申請団体が少なかった為、2時間で終わっているのもあって、かつては4時間や半日以上など、長く行っていた。

委員長

確かに、採択された事業数によって、発表団体の数が決まるので、時間は2時間程度とは限らない。名刺交換を積極的にしている団体もあり、委員である私も何度か名刺交換をさせていただいた。今も、メールマガジンを送ってくれる団体があるが、良い繋がりができることを促していくのは良い。

委員

補助金ルール上での市への報告は、事業報告書の提出によりしっかりやっていただき、それとは別に楽しい会として開催したい。何度か参加させていただいたが、いつも盛り上がり欠け寂しいなと思っていた。本来、沢山の市民に来ていただいて、次に繋がるような報告会を私はイメージしていたが、実際に参加された経験からのご意見では、報告についても審査されるかもという心構えで臨んでいたと知り、ショックである。学会もそうであるが、はじめに全体会があって、その後にポスターセッションなどをすると、発表しているときに別の団体も聞きにくることができて意見交換や交流の場となる。まずは、人が来るかどうかである。今までの、発表者の方がほとんどで、一般来場者がいないような現状を考えると、市民の方に来ていただけるようなイベントにすることが大切。はじめに補助金の良い活用事例の紹介など、楽しく全体で聞くことができるような場があって、その関連として、実際に活動した団体の話を聞く、という流れも検討しても良いのではと思う。まずは、一般市民が来てくれるような状況、曜日、時間帯、場所も考慮し、人が集まらなければ話にならないので、その辺はよく考えた方が良いかと思う。

委員

私自身の団体も過去に補助金交付を受けている。審査会については、その経験を生かして審査に臨んでいる。この審査については大変な重責を担っていると認識している。補助金は税金を使っており、審査には税理士の方も入っている。行った事業については、報告もしっかり行う必要があると思っている。私自身も、報告会には間違いのないようしっかりやらなくてはと思い臨んだ。

ただ、そういった部分は必要だが、この報告会はそのを分けて考え、より多くの市民に来てもらうことを目的とするのが良い。楽しそうなチラシを作って周知すれば、目にした市民の方も来場してくれるのではないかと思う。それとは別に、きちんとした形の報告は必要かと思う。

- 委員 何が目的なのかというのがとても需要で、スタートだと思う。公金を使っているので、審査を経て助成を受けたからにはしっかりとした報告書をあげていただかなくてはならない。でも、その報告書はすでに仕上がって、市への提出も済んでいて、そのうえでまた更に報告会でプレゼンをしなくてはならないというのは、私は一市民の立場ではとてもハードルが高いと感じる。とても気が重たく、ちょっと後ずさりしたくなるような感じである。報告会を分離すると、開催する側の負担がかなり大きくなってしまいかと思うが、やっぱり目的をはっきりさせて効果を最大限に出したいのであれば、スタートから整理すべき。目的が違うのであれば、別の行事にしても良いのではないか。また、負担を軽減するためには、事業独自の文化祭方式による開催ではなく、時期が変わってしまうかもしれないが、他の助成金事業の関連で行っている行事で、可能なものがあればタイアップしても良いのではないか。
- 委員 参加団体の立場としては、市民に報告することの重要性は認識しつつもそこまで重苦しい、肩肘張ったものとは思っていなかった。というのも、参加団体は割と見知った顔が多く、知っているなかでの発表、というのがある。ただそこへ、知らない顔ぶればかりのなかに一人入ったら、緊張するのかもしれない。補助金もモデル事業も3年間なので、ステップアップしていくなかで、同様に活動している団体との繋がりもできていくように思う。例えばだが、補助金の対象団体と市と一緒にやっているモデル事業の報告とは、少し差をつけて発表をする形でも良いかもしれない。また、広く一般市民に伝える為の解決方法になるかはわからないが、周知の方法についてはラインを使うなどくらいしか思いつかない。審査する立場としては、すべてのプレゼンを聞いた後に審査会の開催となるので丸一日かかり、委員側は前のめりになって行っているので、1年後に報告会で話を聞く際に、すごく親身になって聞ける体制ができています。審査する側としてはぜひ報告を聞きたいし、3年間のなかで良い変化があると嬉しい。皆さんが思いつかないような社会課題にかかわってくれる市民が横須賀ににいるというのは非常に心強い。
- 委員長 沢山のご意見をいただいた。
この件については、これらの意見を踏まえ、令和6年度からの実施に向け、引き続き事務局にご検討いただきたい。
現実的には難しいかもしれないが、のたろんフェアに重ねるのが一番かと思っている。市民活動サポートセンター主催の、市民活動団体によるフェアである。沢山人も来るし、団体も多く参加するなかで、団体の自慢話も交流もできる。スペースや時間的問題もあるが、可能な範囲でご検討いただければと思う。
- 事務局 沢山ご意見をいただきありがたい。もう少し早くこのように意見をいただければ、今までより良くなったのではないかと改めて反省をしている。決算等のしっかりした報告なのか、団体のPRなのかという部分については、どっちつかずのまま開催を続けてしまい、その結果がこうなってしまったのかと思う。まさに目的であるが、主催する意図としては、決算審査をするつもりはなく、あくまでも報告書はきちんと提出してもらい、場合によっては団体へ内容確認のために質疑等をさせていただくが、報告会の場合は、発表会のようなイメージで、開催していけたらと思う。また、コメンテーターとして、発表に対しては何かコメントをいただくような立ち位置が良いかと思う。あとは時期の問題で、前年度の事業の報告なので決算終了後のある程度の間、と考えて行っていたが、団体のPRなのであれば、この推進補助金・モデル事業の募集をしている10月くらいの時期でも良いのかなと思う。昨年度の事業成果などを発表していただくことができる。委員長からお話があった、のたろんフェアにおける同時開催も事務局としては良いと思っはいるが、時期が2月なので、次年度に向けた募集が終わってしまっている点がネックである。ただ、報告会の

際にパネルやパワーポイントを作成しておいていただければ、それをまたのたろんフェアで使うこともできるので、両方参加する団体にとってもそこまで負担や混乱はないかと思う。

時期についてはこれから事務局において考えるが、参考に、挙手により各委員のご意見を伺いたい。週末が良いか、平日が良いか、皆さんのお考えを教えてください。

全委員
事務局

(挙手) 週末 多数

時間帯については、昼間か夜間ということになってくるが、もし週末開催とするのであれば夜間よりは昼間が適切かと思う。

場所については市民活動サポートセンターが良いかと思っている。

いただいた意見を含め検討させていただく。

委員長

目的をきちんと事務局において整理することが大切である。いろいろな団体の活動発表を見て、行政が事業として巻き取りたいという意図があれば、平日に職員が来れる形での開催を検討した方が良い。市民の来場者に多く来ていただき交流をメインに開催するというのであれば、週末の実施や、市民活動サポートセンターで行うのが良いかと思う。その場合も、動画に残し配信など、記録を職員も見ることができるのがベストかと思う。そのあたりのフォローは大変かと思うが、検討していただけたらと思う。

2 審議事項

地方税法の寄附金税額控除に係る特定非営利活動法人の指定について

3 その他（連絡事項）

志村委員長から、令和6年度市民協働推進補助金及びモデル事業の募集期間について周知。応募を受けた各補助事業の選定に対する、市民協働推進補助金審査専門部会への諮問・付託について連絡。

事務局から現在日程の確定している審議会開催予定日等に関する事務連絡。

4 閉会